

中房総の鉄道沿線を活性化する「屋外教育環境」実現提案

廃線跡（砂利採取用貨物側線）の復活を軸とした、多世代共生型の地域創生モデル

1 現状と課題



中房総地域（小湊・いすみ鉄道沿線）。都心からのアクセスは良好。



観光資源の知名度が低く
旅客減少傾向。鉄道の
「大量輸送」特性を活かし
きれていない。



豊かな自然環境と既存鉄道
インフラを「多世代の
屋外教育の場」として再
定義する。

2 中核となるアイデア

「小湊鉄道里見駅から分岐する 『砂利採取用貨物側線』の復活」

- ・「保存鉄道」の在り方と「屋外教育環境」を融合させた独自の体験型モデル。
- ・対象者：小学1年生から前期高齢者まで（学校教育+家庭教育を包括）

3 具体的な3つの提案



線路敷設体験

- ・廃線跡や現設施設を活用した保線作業プログラム。
- ・安全に配慮した段階的な体験学習。圧倒的な「達成感」を提供。



歴史記念館へのアクセス

- ・側線終点に「歴史記念館」を建設。鉄道移動自体を学びに。
- ・鉄道システムの合理性、地域史、自然環境を総合的に学ぶ地域の「核(シンボル)」の創出。



車両製作・補修体験

- ・砂利山線車両や軽便鉄道を模した車両の復元・補修。
- ・理念に共感する人々が集い、参加型施設を通じた「多世代の相互交流」を実現。

4 実現性と目指す未来

【実現性の裏付け】

- ・養老溪谷、京都鉄道博物館等への詳細調査に基づき設計。
- ・投資額の調整が可能な、継続性の高い採算モデル。

【目指す未来】

1. 教育：専門性の高い体験を通じた生きた学び。
2. 多世代共生：都市と山村の交流による一体感。

将来展開 → 地方鉄道活性化のモデルケースへ。